第 1 号
平成31年3月
JA加賀
加賀市米麦改良協議会
加賀農業改良委員会

# 営農だより

## ～育苗期間は1ヶ月以内! 老化苗を防ごう!!～

**育苗期間(育苗計画)**

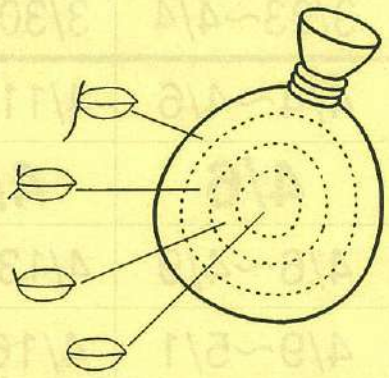
老化苗の移植を防ぐため、田植え時期に合わせた播種計画を立てましょう。(詳細は裏面を参照)

**土・苗箱・種籾の準備**

育苗箱・床土・種籾の目安(10a当たり)

| | 60株植 | 50株植 |
|---|---|---|
| 箱　数 | 18箱 | 15箱 |
| 床　土 | 90kg | 75kg |
| 種　籾 | 2.2kg | 1.8kg |

### 袋詰めのポイント



袋内の外側と内側で幼芽・幼根の伸びにバラツキがでます。**種籾は袋に半分程度**にして、催芽ぞろいを良くしましょう。

**種子消毒**

【水稲消毒種子の場合】
種子消毒期間中、最初の3日間は水の交換をしない。

**浸種**

- 水温は10～15℃に保つ。
- 浸種期間の目安は積算温度(水温×浸種日数)で100℃以上、コシヒカリ等の休眠の深い品種は120℃を確保する。
- 浸種水量は種籾の2倍以上とする。水は1～2日毎に交換、後期は呼吸量が盛んになるので、毎日交換する。

**種籾発芽向上のポイント**

1. 浸種水量は種子籾の2倍(籾1kg:水2ℓ)
2. 浸種当初の水温は10℃以上を必ず保つ
3. 可能な限り、こまめに水の入れ替え

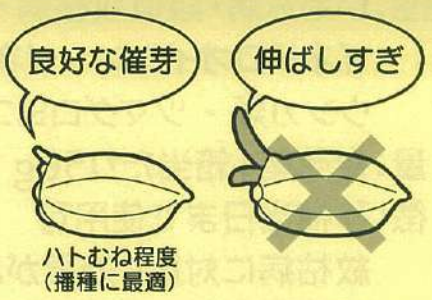
**浸種期間の目安** (積算温度100℃以上)

| 品種名＼水温 | 10℃ | 15℃ |
|---|---|---|
| コシヒカリ<br>ゆめみづほ | 12日間 | 8日間 |
| カグラモチ | 10日間 | 7日間 |

**催芽**

- 催芽温度が高いと、もみ枯細菌病・褐条病の発生を助長する。
- 催芽をそろえる(9割以上)。

| 催芽温度 | 最適催芽程度 | 日数 |
|---|---|---|
| 30℃ | 1～2㎜(ハトむね) | 1.6～2.0日 |




**播種**

| 1箱あたりの目安 | | 注意事項 |
|---|---|---|
| 乾籾重 | 120g | ●厚播は障害苗が発生しやすく、苗質を弱くします。<br>●コシヒカリの播種は4月に行いましょう。<br>●播種同時散布可能箱剤については裏面を参照。 |
| 催芽籾重 | 150g | |

**かん水**

- かん水量は1箱当たり0.8～1.2ℓで、箱の底まで床土が湿った状態が目安となります。
- カビ予防をかねて、ダコレート水和剤の500倍液を1箱当たり500㎖灌注する

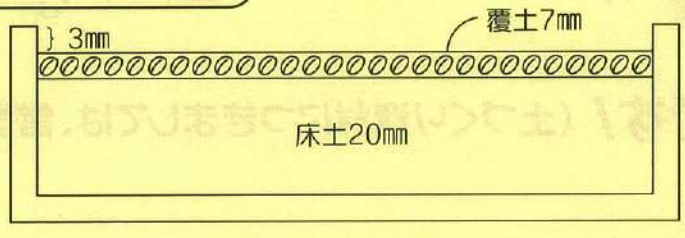
**厳守** ダコレート水和剤の使用は、播種時から緑化期(但し播種後14日まで)で2回以内です。

※播種時1回、ハウス内(緑化期まで)1回の使用としてください。

**覆土**

- 覆土の厚さは7㎜程度とし、1㎝以上の厚さには絶対にしないこと。

**床土・覆土の量**



催芽籾150g(乾燥籾120g)播き【原寸大】

**出芽**

温度ムラに注意し、芽の揃いを良くしよう。
出芽器内の温度は昼夜とも **30℃** にし、2～3日を目安とする。
**芽の長さが8～10㎜(ゆめみづほ10㎜)が最適です。**

裏面につづく

# 田植え時期に合わせて浸種を開始しよう！

播種は田植え時期から逆算して計画的に行いましょう。**育苗期間は1ヶ月以内です！**播種が早いと育苗期間が長くなり老化苗になりやすく、田植え後の活着が悪くなります。また、ハウス管理にも負担が掛かります。

## 〈田植え時期と播種時期の目安〉

| 項目＼田植え時期 | 一般移植 | | | | 遅植 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 5/1 | 5/5 | 5/10 | 5/15 | 5/21 | 5/25 |
| 浸種(10℃×12日間) | 3/23～4/4 | 3/30～4/11 | 4/6～4/18 | 4/11～4/23 | 4/20～5/2 | 4/24～5/6 |
| 催芽(2日) | 4/4～4/6 | 4/11～4/13 | 4/18～4/20 | 4/23～4/25 | 5/2～5/4 | 5/6～5/8 |
| 播種 | **4/6** | **4/13** | **4/20** | **4/25** | **5/4** | **5/8** |
| 出芽(2.5日) | 4/6～4/9 | 4/13～4/16 | 4/20～4/23 | 4/25～4/28 | 5/4～5/7 | 5/8～5/11 |
| ハウス管理 | 4/9～5/1 | 4/16～5/5 | 4/23～5/10 | 4/28～5/15 | 5/7～5/21 | 5/11～5/25 |
| ハウス管理期間 | 22日間 | 19日間 | 17日間 | 17日間 | 14日間 | 14日間 |
| 播種～田植え | 25日間 | 22日間 | 20日間 | 20日間 | 17日間 | 17日間 |

## 床土混和・播種時散布可能な育苗箱施薬剤

### エバーゴルフォルテ箱粒剤

使用期間：播種前・播種時（覆土前）～移植当日
適用病害虫：いもち病・疑似紋枯病・白葉枯病・紋枯病
イネドロオイムシ・イネミズゾウムシ
ウンカ類・ツマグロヨコバイ
使用量：育苗箱1箱当たり50g
特徴：移植当日まで使用可
紋枯病に対して効果があり、ゆめみづほの出穂前防除を省略できる
備考：ハウスで後作として作物を栽培する場合は使用しない

### ファーストオリゼフェルテラ粒剤

使用期間：播種前・播種時（覆土前）
適用病害虫：いもち病・白葉枯病・もみ枯細菌病
イネドロオイムシ・イネヒメハモグリバエ
イネツトムシ・イネミズゾウムシ・ツマグロヨコバイ
ニカメイチュウ・フタオビコヤガ
使用量：育苗箱1箱当たり50g
特徴：いもち病に対し高い効果
備考：播種時（覆土前）までしか使用できない
ハウスで後作として作物を栽培する場合は使用しない

## 加賀市の土壌は、りん酸・けい酸が少ない!!

高温による稲体の消耗
低温による籾の不稔
病害虫による抵抗力の低下

★土づくり資材は春散布も可能です！（土づくり資材につきましては、営農ブックP48、49参照）

★作土深を確保する（15cm以上）
↳根を強く張らせ、高温・低温や干ばつに対する抵抗力を高めます。